

健胃消化剤 (2339185)

【成分】

SK, HM, KM, NIM, OM : 1.3 g 中ジアスターゼ 100 mg, メタケイ酸アルミン酸マグネシウム 400 mg, 炭酸水素ナトリウム 300 mg, 沈降炭酸カルシウム 200 mg, チョウジ末 10 mg, ウイキョウ末 20 mg, ケイヒ末 74.5 mg, ショウキョウ末 24.5 mg, オウレン末 50 mg, サンショウ末 1 mg, カンゾウ末 118 mg

【適応と用法】

次の消化器症状の改善：食欲不振, 胃部不快感, 胃もたれ, 嘔気・嘔吐, (ロートエキス含有の MP, ベルサン) 胃痛

HM, KM, OM, マナミン TM : 1 回 1.3 g, 14~7 歳 1/2, 6~4 歳 1/3, (マナミン TM) 3~2 歳 1/6, 1 日 3 回食後(マナミン TM 増減)

【注意事項】

S・M 散・マクファン：

(1) 禁忌

(a) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
(b) 透析療法を受けている患者 [長期投与によりアルミニウム脳症, アルミニウム骨症が現れるおそれがある]
(c) ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症, 浮腫, 妊娠中毒症等) [ナトリウムの貯留増加により症状が悪化するおそれがある]

(d) 高カルシウム血症の患者 [血中カルシウム濃度が上昇し, 症状が悪化するおそれがある]

(e) 甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症の患者 [血中カルシウム濃度の上昇により病態に悪影響を及ぼすおそれがある]

(2) 慎重投与

(a) 重篤な消化管潰瘍のある患者 [炭酸水素ナトリウムを配合しているため, 症状が悪化するおそれがある]

(b) 腎不全の患者 [排泄障害により副作用が現れることがある]

(c) 心機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある]

(d) 肺機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある]

(e) リン酸塩低下のある患者 [アルミニウムにより無機リンの吸収が阻害される]

(f) 低クロル性アルカローシス等の電解質失調の患者 [症状が悪化するおそれがある]

(3) 相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

活性型ビタミン D 高カルシウム血症が現れやすくなる 消化管からのカルシウムの吸収が亢進される

テトラサイクリン系抗生物質 ・塩酸テトラサイクリン ・塩酸ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・エノキサシン ・ノルフロキサシン ・オフロキサシン等 本剤との併用により, これらの薬剤の効果が減弱することがあるので, 同時に服用させないなど注意する。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある 本剤に含まれるアルミニウム, マグネシウム等とキレートを生成し, 吸収が低下することにより, これらの薬剤の血中濃度が低下する 大量の牛乳・カルシウム製剤 Milk-alkali syndrome(高カルシウム血症, 高窒素血症, アルカローシス等)が現れるおそれがあるので, 観察を十分に行い, 症状が発現した場合には中止する 本剤の吸着作用又は消化管内・体液の pH 上昇による作用と考えられている

その他の併用薬剤 併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある 本剤の吸着作用又は消化管内・体液の pH 上昇による作用と考えられている

(4) 副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査は実施していない

頻度不明

長期・大量投与 腎結石, 尿路結石

代謝異常(注 1) 高マグネシウム血症

消化器 便秘

過敏症(注 2) 発疹

その他(注 3) 低カリウム血症, 血圧上昇, 体重増加, 浮腫

(注 1) 長期投与により現れることがある

(注 2) 中止する

(注 3) カンゾウを配合しているため, 長期連用により現れることがある

(5) 防湿・室温保存

MMD：

(1) 禁忌：(a) ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症, 浮腫, 妊娠中毒症等) [ナトリウム貯留増加により, 症状が悪化するおそれがある]

(b) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

(2) 慎重投与

(a) 重篤な消化管潰瘍のある患者 [炭酸水素ナトリウムを配合しているため, 症状が悪化するおそれがある]

(b) 腎障害のある患者 [ナトリウム貯留による浮腫が現れるおそれがある]

(c) 心不全の患者, 高血圧症の患者 [ナトリウム過剰により, これらの症状が悪化するおそれがある]

(d) 肺機能障害のある患者 [呼吸性アルカローシスになるおそれがある]

(e)低クロル性アルカローシス等の電解質失調のある患者 [症状が悪化することがある]

(3)相互作用

(a)併用禁忌

薬剤名 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

マンデル酸ヘキサミン(ウロナミン腸溶錠) 本剤はヘキサミンの効果を減弱させることがある ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿の pH を上昇させヘキサミンの効果を減弱させる

(b)併用注意：制酸作用等を持っているので、他の薬剤の吸収・排泄にも影響を与えることがある

(4)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない

種類\頻度 頻度不明

過敏症 発疹等

(注)症状が現れた場合には、中止する

(5)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

(6)取扱い上の注意：生薬製剤であるため、産地や採集時期により多少色調が異なることがある

健胃散：

(1)禁忌：ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等) [ナトリウムの貯留増加により症状が悪化するおそれがある]

(2)慎重投与

(a)重篤な消化管潰瘍のある患者 [炭酸水素ナトリウムを配合しているため、症状が悪化するおそれがある]

(b)腎障害のある患者 [ナトリウム貯留による浮腫が現れるおそれがある]

(c)心不全の患者、高血圧症の患者 [ナトリウム過剰により、これらの症状が悪化するおそれがある]

(d)肺機能障害のある患者 [呼吸性アルカローシスになるおそれがある]

(e)低クロル性アルカローシス等の電解質失調の患者 [症状が悪化するおそれがある]

(3)相互作用

(a)併用禁忌

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

マンデル酸ヘキサミン 本剤はヘキサミンの効果を減弱させることがある ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿の pH を上昇させヘキサミンの効果を減弱させる

(b)併用注意：本剤は制酸作用等を持っているので、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある

(4)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

(5)取扱い上の注意 その他：原料に生薬が含まれているので、その産地、採取時期等により、製品の色調、味等が一定しないことがある。また、黒色様のものが認められることもあるが、原料生薬由来によるもので、薬効に変化はない

(6)室温保存

重散：

(1)禁忌：ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等) [ナトリウム貯留増加により、症状が増悪するおそれがある]

(2)慎重投与

(a)浮腫のある患者 [症状が悪化するおそれがある]

(b)心不全のある患者 [症状が悪化するおそれがある]

(c)高血圧症の患者 [症状が悪化するおそれがある]

(3)相互作用

併用禁忌

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

マンデル酸ヘキサミン(ウロナミン腸溶錠) 本剤はヘキサミンの効果を減弱させることがある ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿の pH を上昇させヘキサミンの効果を減弱させる

(4)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない

頻度不明

過敏症 発疹等(注)

(注)これらの症状が現れた場合は、中止する

(5)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので、減量するなど注意する

(6)妊婦、産婦、授乳婦等への投与：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のあ

る婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与する

(7)小児等への投与：小児等に対する安全性は確立していない〔使用経験が少ない〕

(8)取扱い上の注意：生薬の産地及び仕入れの時期により色が異なることがあるが、薬効に変化はない

(9)(開封後)防湿保存

TM：

(1)禁忌

(a)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

(b)ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等)〔ナトリウムの貯留増加により症状が悪化するおそれがある〕

(c)高カルシウム血症の患者〔血中カルシウム濃度が上昇し、症状が悪化するおそれがある〕

(d)甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症の患者〔血中カルシウム濃度の上昇により病態に悪影響を及ぼすおそれがある〕

(2)慎重投与

(a)重篤な消化管潰瘍のある患者〔炭酸水素ナトリウムを配合しているため、症状が悪化するおそれがある〕

(b)腎不全の患者〔排泄障害により副作用が現れることがある〕

(c)心機能障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(d)肺機能障害のある患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(e)低クロル性アルカローシス等の電解質失調の患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(3)相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

活性型ビタミンD 高カルシウム血症が現れやすくなる 消化管からのカルシウムの吸収が亢進される

テトラサイクリン系抗生物質 ・塩酸テトラサイクリン ・塩酸ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・エノキサシン ・ノルフロキサシン ・オフロキサシン等 本剤との併用により、これらの薬剤の効果が減弱することがあるので、同時に服用させないなど注意する。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある マグネシウム等とキレートを生成し、吸収が低下することにより、これらの薬剤の血中濃度が低下する

大量の牛乳・カルシウム製剤 Milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)が現れるおそれがあるので、観察を十分に行い、症状が発現した場合には中止する 本剤の吸着作用又は消化管内・体液の pH 上昇による作用と考えられている

その他の併用薬剤 併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある 本剤の吸着作用又は消化管内・体液の pH 上昇による作用と考えられている

(4)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない

頻度不明

長期・大量投与 腎結石、尿路結石

代謝異常(注1) 高マグネシウム血症

消化器 下痢、悪心・嘔吐、便秘

過敏症(注2) 発疹

その他(注3) 低カリウム血症、血圧上昇、体重増加、浮腫

(注1)長期投与により現れることがある

(注2)このような場合には、中止する

(注3)カンゾウを配合しているため、長期連用により現れることがある

(5)開封後防湿・室温保存

ピアサン・ビットサン：

(1)禁忌：ナトリウム摂取の制限を必要とする患者〔ナトリウム貯留増加により、症状が増悪するおそれがある〕

(2)慎重投与

(a)浮腫のある患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(b)心不全の患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(c)高血圧症の患者〔症状が悪化するおそれがある〕

(3)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である 過敏症：発疹、(ピアサン)発赤、そう痒等が現れることがあるので、このような症状が現れた場合には中止する

(4)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する

(5)妊婦、産婦、授乳婦等への投与：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与する

(6)小児等への投与：小児等に対する安全性は確立していない〔使用経験が少ない〕

(7)取扱い上の注意：生薬を含むため、製造ロットにより多少色調等が異なることがあるが、品質には影響ない

(8)直射日光を避け、防湿・涼所保存

ベルサン：

(1)禁忌

(a)ナトリウム摂取の制限を必要とする患者〔ナトリウム貯留増加により、症状が増悪するおそれがある〕

(b)緑内障のある患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある〕

(c)前立腺肥大による排尿障害のある患者〔排尿筋を弛緩、膀胱括約筋を収縮させるため、排尿が困難になり、症状を悪化させるおそれがある〕

- (d)重篤な心疾患のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある〕
- (e)麻痺性イレウスのある患者〔消化管運動を低下させるため症状を悪化させるおそれがある〕

(2)慎重投与

- (a)浮腫のある患者〔症状が悪化するおそれがある〕
- (b)高血圧症の患者〔症状が悪化するおそれがある〕
- (c)前立腺肥大のある患者〔尿を出にくくすることがある〕
- (d)潰瘍性大腸炎のある患者〔中毒性巨大結腸が現れることがある〕
- (e)甲状腺機能亢進症のある患者〔心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある〕
- (f)高温環境にある患者〔汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある〕

(3)重要な基本的注意：視調節障害、散瞳、羞明、めまい等を起こすことがあるので、投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作をさせないように十分注意する

(4)相互作用

併用注意

薬剤名等 臨床症状・措置方法 機序・危険因子

三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 MAO 阻害剤 抗ヒスタミン剤 イソニアジド 本剤の作用が増強されることがある 抗コリン作用が増強されることが考えられる

(5)副作用：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である

- (a)眼：視調節障害、散瞳、羞明、霧視等が現れることがある
- (b)消化器：口渇、悪心・嘔吐、便秘等が現れることがある
- (c)泌尿器：排尿障害等が現れることがある
- (d)精神神経系：頭痛、頭重感、めまい等が現れることがある
- (e)循環器：頻脈等が現れることがある
- (f)過敏症：顔面紅潮等が現れることがある

(6)高齢者への投与：一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する。また、高齢者には慎重に投与する〔ロートエキス散の抗コリン作用による口渇、排尿困難、便秘等が現れやすくなる〕

(7)妊婦、産婦、授乳婦等への投与：妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人には投与を避けさせる〔ロートエキス散の抗コリン作用により胎児又は新生児に頻脈等を起こすことがある。また、乳汁分泌が抑制されることがある〕

(8)小児等への投与：小児等に対する安全性は確立していない〔使用経験が少ない〕

(9)直射日光を避け、防湿・涼所保存

(10)規制等：劇指(分包品を除く)